

科目名	クオリアの科学
担当者	武田修三郎
配当学期	前期
単位	2単位
授業概要	ガラケイという言葉がある。ガラパゴス携帯のことだが、現下の日本はガラケイだけでなく、ガラポリ、ガラカン、ガラリー、ガラヤンで溢れている。つまり、政治も、企業（カンパニー）も、リーダーもヤングもすべてガラパゴス化。そして、この結果は経済・社会の衰退。ガラケイの理由はただ一つ、彼らの認識（考え方、価値観、ビジョン、質感（クオリア））が時代遅れ。つまり、世界は新文明に突入し新たな認識がでたのに、日本は古いまま。実は、現下の世界はこの認識をめぐって新興諸国か、新興衰退国かに分けることができる。新たな認識は新たな科学（=クオリアの科学）に従い可能。この科学が扱う範囲はICT、ナノテクから知性、人間性、幸福、価値、クオリア。
授業の到達目標	新たな文明で活躍する人財づくり。新教養といえるクオリアの科学を学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) クオリアの科学（ニューサイエンス）総論 (2) メガシフト（パラダイムシフト）の時代 (3) (知性、質、価値、システム、プロセスの)の再定義 (4) クオリアの科学がもたらすイノベーション (5) 二つのNDCs（新興国と新興衰退国）とクオリアの科学 (6) クオリアの科学への準備（メタ認知、メタ知性を学ぶ） (7) クオリアの科学のコア（認知科学と組織論） (8) 現下の世界：フリードマンが定義する世界はフラット (9) イノベーションとイノベーション理論 (10) 知性とエコシステム (11) 経営再定義（新しい経営とクオリア） (12) 政治再定義（新しい政治とクオリア） (13) 公共経営再定義（ステークスからマルチステークス） (14) 幸福論の再定義（人間から人間性へ） (15) フロニーモス（イノベーター）たち
教科書	時々の項目で資料並びにテキストを提示。
参考文献	デミングの組織論、東洋経済新報社、武田修三郎 フロニーモスたち、宣伝会議、武田修三郎
成績評価方法	出席 20%、対話（各界の本物との対話も含む）50%、レポート 30%
関連 URL	時々で指定（多数あり）
備考	認識のシフトは教育がもたらすがこれは後期